

「小論文」

(90分)

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

設問1

貧困国を助けるためにはどのようにするのが最善なのかについて、サックスとイースタリーの考えにつき、それぞれ10行程度で要約しなさい。

設問2

設問1を踏まえて、貧困国を助けるためにはどのようにすべきかにつき、あなたの見解を述べなさい。

出典：レイモント・フィスマン、エドワード・ミゲル『悪い奴ほど合理的』（NTT出版、2014年）

コロンビア大学地球研究所所長のジェフリー・サックスは、国際開発援助の増額を疲れを知らぬかのように公然と訴え続けている。僕たちが博士号の修得を目指していた頃、サックスはハーバード大学の教授であり、彼の学術的な卓越性や理論的な才能を間近に経験することができて僕たちは幸運であった。彼はたぐい稀な思想家で、彼の意見を拝聴するたびに、世の中に関する理解が少し深まったように感じる。僕たちが生活している社交下手な学者の世界では、サックスのカリスマ性は伝説である。実際、ミゲルが大学院時代にアフリカで開発の仕事をするというインスピレーションを得たのは、世界の貧困との戦いにかかわる道徳的な側面に関するサックスの魅力的なスピーチが一因であった。

サックスは経済成長に関して「貧困の罠」があるという見方の主導的な提唱者である。貧困の罠の背後にある発想は単純である。貧しいケニアの農民は独りでは貧困から容易に脱出できない。自分の家族を養うのに十分な食料を購入したり、子供たちを適切な学校に行かせたりする余裕がない。さらに、豊作の年に貯め込んでいた貯蓄は、今度は不作や病気でたちまち食い潰されてしまう。農民が窮乏であれば、自分や子供たちも窮乏なままにとどまることがほぼ確実に保証される。長期にわたってそれが繰り返される。

サックスの意見では、外国援助は農民あるいは村や経済全体を、この貧困誘発型の悪循環から引き上げることができる突然のショックになる。しかし、落とし穴がある。保健所の建設、学校の改築、国ないし大陸全体にわたって道路や発電所などのインフ

ラの追加は高価であり、サックスの見積もりでは、アメリカの対外援助予算は途上国世界を貧困の罠から引き上げるには、少なくとも現状の5倍に増加させる必要がある。

サックスの最近のベストセラー書『貧困の終焉』で説明されているように、ケニアが貧しいのは、富裕国の人間が彼らを助けるために、あまり十分なお金を支出していないからであり、もしこのような資源が利用可能であれば、貧困はこの惑星からただちに撲滅することができるだろう。サックスは次のように主張している。「富裕国の富をもってすれば、（中略）2025年までに貧困を終焉させるのは現実的な確立といえるだろう」。

貧困に終焉をもたらすというサックスの発想は理論的には道理に適っている。しかし、他の多くの経済学者は次のような正反対の意見をもっている。「われわれはあまりに多額の対外援助をすでに支出している、あるいは少なくともそのすべてを間違った形で間違った場所に支出している」。このような主張でおなじみの顔はビル・イースタリーである。世界銀行の外国援助政策を公に酷評してそこから追放されて以降、ニューヨーク大学の教授になったイースタリーは、援助は全体として世界の貧困層のためにほとんど良いことをしてこなかった、という意見の主要なスポークスマンになっている。彼の主張では世界銀行や他のドナーはすでに数兆ドルを浪費してきており、サックスの援助を5倍に増額するという提案は数兆ドルをばらまくだけに終わる可能性大であろう。彼は次のように主張している。このような莫大な援助資金は、しばしば建設・運営・維持を監督する能力が不十分な諸国における壮大な中央計画制のプロジェクト——水力発電用ダム、4レーンの高速道路、淡水化プラントなど——に支出されてきている。

イースタリーはほとんどの外国援助ドナーのやり方を、1950年代にソ連の経済計画官が採用した手法と比較している。賢いモスクワの官僚がすべての労働者と小農のニーズを完璧に予測・充足できる、という新しい経済秩序を彼らは夢見ていた。しかし、イースタリーはこう疑問に思う。すなわち、ワシントンDCからパラシュートで降下してきた外国援助計画官が、遠く離れた諸国の経済を開発する方法をどのようにして本当に知ることができるのだろうか？ケニア人が新しい大学よりも水力発電用ダムが必要だったということをどうやってわかったのだろうか？灌漑用水路よりも高速道路が必要なことが（その逆でもいいが）なぜわかったのか？絶対に必要とされていた学校や保健所を建設することが企画されていたプログラムについてさえ、ケニアの指導者が実際にお金を意図通りに使って、横領しなかったこと、あるいはまったく

違ったことに支出しなかったことを、ドナーはどのようにして確認できたのであろうか？

今日わかっているのは、これまでの外国援助の努力がもたらした成果に関して、発展途上世界の多くは証明すべきものをほとんどもっていないということだ。善意を示す錆び付いた記念碑のコレクションがせいぜいのところである。何兆ドルものお金がどこにもつながらない道路や、たった一軒の家さえ明るくしなかった発電所に浪費されたのだ。それ以外に何十億ドルが盗まれた。踏んだり蹴ったりということになるが、世界で偉大な経済的奇跡は大規模な外国援助機関の融資をほとんど一蹴した国々で生じている。それには、ごく最近の1980年代にはアフリカ並みの貧困に喘いでいた中国とインドも含まれる。仮にこの2カ国が重要な外国援助なしに、数十年間にわたって記録的な高成長を何とか達成できたのであれば、外国援助による強力な後押しがケニアにとって本当に正しい是正策になるのか？例えば、そうではなく、なぜ中国やインドの先例に習わないのか？

イースタリーとその仲間である「制度学派」は次のように主張している。外国援助予算を5倍にする前に、受領国がこのような追加的な資金を本当に利用できることを確実にする必要がある。援助資金を受領する諸国は統治が良い必要があり、資金が大統領官邸の住人ではなく、「一般人」の利益に資するように使われていることを確認・監視する人がだれか必要である。援助受領国には機能性の高い政府機関や、政府の説明責任を問い、経済的ギャングが権力を握るのを阻止するメディアや自治会など市民社会組織がなければならない。

多くの途上国はこの理想からは程遠い。イースタリーは近著『傲慢な援助』のなかで次のように主張している。それら諸国がいわゆる制度を是正するまで、僕たちができる最善のことは小規模な社会的企業家に資金供与することだ。これらの「探究者」と呼ぶべき人々は、地元の開発問題に関して革新的な解決策を発見している。そのような小規模介入策はたとえ中央政府で腐敗が蔓延しているなかでも、ドナーや地域社会によってモニターし説明責任を問うことができるだろう。もし成功すれば、規模を拡大してより多くの人々に利益をもたらすことができる。社会が腐敗や無秩序に対処する方法を見出すにつれて、貧しいコミュニティの人々も自分自身の将来に気楽に投資できるようになり、経済開発が持続することになるだろう。しかし、そうなるまで、僕たちは損の上塗りをすべきではない。

だれでも論争、とりわけサックスとイースタリーの本の出版社どうしの戦いを好む。しかし、このような二つの見解は必ずしも完全に矛盾しているわけではない。サックスとイースタリーはともに非常に頭の良い人だ。サックスは何も次のようなことを推奨しているわけでない。「ドナーは腐敗した独裁者のスイス銀行口座に数十億ドルのお金を直接振り込むべきである、あるいは番号を控えていない100ドル札を詰め込んだブリーフケースを彼らに手渡して、最善の結果を期待すべきである」。一方、イースタリーのほうも次のようなことを提案しているわけではない。「富裕国のわれわれは貧困国の集団的な運命を完全に見捨てて、資金を供与する前に、彼らがみずから秩序を回復するのを頑固に待つべきである」。

にもかかわらず、重要な相違から両者は袂を分かっている。サックスの貧困の罫という見方は次のような主張になる。「われわれはまずは人々を貧困から引き上げる必要がある、そうすれば良い政府、活発なメディア、コミュニティの政治参加など、他のすべてのことはほとんどが追随してくる。しかし、第一歩は貧困層が次の食事がどこから得られるかを、もう心配しなくていいようにすることだ」。

イースタリーの反対意見は次のように反撃している。「それは本末転倒である。われわれはこれまで数十年にわたって、何兆ドルもの経済的な『大きな後押し』を試みてきたが、アフリカは1960年代と同じく貧しいままである。外国援助計画官によるいっそう大きな後押しは、単にさらに多額のお金が誤用や濫用で失われるだけだろう。潜在的な将来のドナーの間でより大きな幻滅を生むだろう」。

入試日程 A日程 題科目名 小論文 \_\_\_\_\_**出題の意図**

発展途上国に対する先進国の開発援助の増額に賛成する見解と反対する見解について、それぞれ要約した（設問1）上で、それらに対する自己の見解を述べるように求める（設問2）問題である。設問1においては、サックス教授の見解（貧困を誘発する悪循環を断ち切るためには援助が不可欠。保健所、学校、インフラの整備のためにはもっと援助が必要）と、イースタリー教授の見解（先進国の援助を発展途上国のニーズに適合させることは出来ず、援助の増額は無駄を増やすだけで効果がない。中国やインドの経済発展は大規模な援助なしで成し遂げられた）を適切にまとめることが、設問2では、これらを踏まえた上で自己の意見を、単なる感情論印象論ではなく、論理的かつ説得力ある形で、述べることが求められている。